

グローバル・インフラに関する調査研究を体験

第 6 回夏期インターンシッププログラムを開催

～国内 8 大学の学生がチームによる調査研究、学術論文作成、発表を実施～



夏期インターンシッププログラム 第 1 回対面ミーティングの様子

公益財団法人日本グローバル・インフラストラクチャー研究財団（所在地：東京都港区、理事長：中山幹康、略称：日本 GIF）は、2026 年 8 月 1 日（土）から 10 月 3 日（土）にかけ、日本国内の大学生を対象とした第 6 回夏期インターンシップ「グローバル・インフラストラクチャーに関する調査研究」を、都内の会場およびオンラインにて開催しました。国内 8 大学の学生 9 名が共同研究に取り組み、プログラムを修了しました。

今年度の共通研究テーマは、米国政府が 1980 年に公表した『The Global 2000 Report to the President of the U.S.: Entering the 21st Century』に示された未来予測の検証です。学生たちは「リソース（資源・エネルギー）」と「ネイチャー（自然環境）」の 2 チームに分かれ、原子力発電、石油需給、気候変動、都市人口、水資源需給などを調査。予測の当否判定だけでなく、その後の社会経済情勢や技術の変化も検討しました。

本プログラムは、8 月 1 日・2 日に都内の研修施設で開催した対面ミーティングからスタートしました。チーム編成後、チューターが「論文の書き方」について講義を行い、各チームでミーティングを実施しました。その後、8 月から 9 月にかけて、チューターの指導のもと、4 回のオンラインミーティングを通じて文献や統計データの妥当性を確認しながら議論を重ね、研究論文と発表資料を作成しました。10 月 3 日には、大学教員や研究者など 7 名の専門家を講評者に迎えて成果発表会を開催し、各チームの発表、質

疑応答、有識者の講評、修了証の授与を経て、プログラムは終了しました。終了後には懇親会を行い、インターンやチューター、講評者、関係者が交流を深めました。

プログラム修了後、インターンを対象に実施したアンケートでは、以下のようなコメントが寄せられました。

- ・多様な観点から物事を考えることができた
- ・多くの専門家の前での発表は、とても貴重な経験になった
- ・グローバル・インフラへの関心が高まった

日本 GIF は、今後も大学生に調査研究と大学間交流の機会を提供し、グローバル・インフラへの関心を喚起していきたいと考えています。



夏期インターンシッププログラム 修了証の授与



参加者と関係者の集合写真

= この件に関するお問い合わせ先 =

公益財団法人日本グローバル・インフラストラクチャー研究財団

(日本 GIF) <https://gif.or.jp/>

担当：事務局長 坂本晶子

Phone: 050-5601-8106 e-mail : info@gif.or.jp